1日目

　私は、休日のお昼にはいつもインスタントラーメンを食べている。

　鍋でお湯を沸かし、沸騰したところでラーメンを入れる。卵やもやしも一緒に沸騰したお湯の中に入れ3分経ったら、あらかじめ粉末スープを入れておいた器にお湯ごと入れてかき混ぜる。

　すると、ゆっくりお湯と粉末スープが混ざり合い、おいしそうな匂いがあたりに漂う。

　最後にコショウやラー油をお好みでいただく。

****

　ある日、私は近くのスーパーへインスタントラーメンを買いに行ったの。いつものように醤油ラーメンと味噌ラーメンをかごに入れ、レジへ向かったわ。

　でも、その途中、私は見てしまったの。インスタントラーメンが売られている棚の端っこに、新商品がでているのを。

『豚骨醤油味』

　それはまさしく豚骨醤油味のインスタントラーメンだったわ。何度も見返したから間違いない。

私はそれを手に取ると、パッケージの裏面に書かれているラーメンの作り方を凝視した。まさか、他のラーメン同様の作り方で豚骨醤油味が作れるわけーーー。

　そのまさかだった。私は自分の目を疑ったわ。そこにはこう書かれていたの。

『鍋にお湯500mlを入れてよく沸騰させ、めんを入れて5分間ゆでて下さい。』と。

「めんをゆでる時間こそ違うものの基本的な作り方は一緒だわ！」

　私は無意識のうちに大声でそう叫んでいた。

　もちろん買ったわよ。

　私は溢れ出るよだれをおさえてレジを抜け店を出る。そして、家までの道中もまた、溢れ出るよだれをようやくのところでおさえながら家へ向かって歩く。すれ違う人々に変な目で見られているんじゃないかという自意識過剰状態の中ようやく家に着いた。

****

　家へ着くと私は、何よりもまず先に豚骨醤油味のラーメンを作ることにした。逸る気持ちを抑えきれずに外側のパッケージを破ると、中に入っていたラーメンのパッケージ5つがものすごい勢いで床へと散っていった。私は血眼になりながらそれらのラーメンを拾い上げ、何とか元のパッケージに戻せないか試した。しかし、パッケージは無残に引き裂かれており、それは叶わなかった。

私はパッケージを無残な姿にした愚かな自分を叱責しつつラーメン作りを始める。私はいつものようにカップに500mlの水を入れ、それを鍋に移すとコンロの火をつけた。

鍋に蓋をして数分。お湯が沸騰する。

私は興奮していた。とうとう豚骨醤油味のラーメンをこの手で作るのだと。

そうして私は、逸る気持ちを抑えることができずに、パッケージをビリビリに引きさき、中に入っていたラーメンやかやく、液体スープを床に散りばめてしまった。

私は一瞬、いや、数分、いや、数時間、意識を失った。そのショックは計り知れない。5つ入っているうちの1つをこんなところで意味もなくゴミにしてしまったのだ。

私は自分を呪った。自分はなんて愚かなんだ。

しかし、ようやくのところで我に返る。時刻は午後6時。豚骨醤油味のラーメンを作ろうとした時から6時間が経過していた。

私は、次こそはおいしいラーメンを作るんだ、という意気込みを入れ封を切った。今度はうまくいった。

鍋に入れた水が沸点に達し、ラーメンにとっての最高の舞台へと姿を変えていく。私は慎重にラーメンを鍋の中に入れる。

ここから5分。醤油や味噌と違い、豚骨醤油は5分間の調理を要するのだ。気の抜けない5分間が始まる。

私はラーメンにトッピングするもやしと卵を冷蔵庫から取り出す。

残り調理時間3分になったら卵を投入し、さらに、残り時間1分30秒になった時もやしを投入する。完璧な計画だった。

そして、まず第一段階、卵を投入する瞬間が訪れた。私は卵をキッチンのシンク付近で割ることに成功し、それをラーメンが踊る鍋へと入れた。その瞬間、私は我が目を疑った。

いや、それが現実に起きていることだということはわかっていた。ただ、わかりたくなかった。信じたくなかったのだ。

私が鍋へと投入した卵は、鍋へ入ったときの衝撃に耐えることができず、卵の黄身に亀裂が入ってしまったのだ。

ラーメンを作る者にはわかる。この状態になった卵を救うことはもう、できないことを。

ラーメン作りには自信があった。毎週のように作っているのだから当然だ。なのになぜ、このようなことになってしまったのか。お店でこれを見つけたとき、一体誰がこのような事態を想定することができただろう。これはなにかの間違いだ。

そうだ、これはきっと『豚骨醤油の呪い』なのだ。